

べなれす市恒河ノ晨景

第二十一圖解説

べなれす (Benares) 市ハ印度最古ノ舊都ニシテ、土民ハかし (Kasi) ト通稱シ、  
嘗テ波羅痲斯國ノ都城タルモノ即是ナリ、人口二十二萬二千四百アリ、街衢  
四通八達シ、諸種ノ官衙及幾多ノ公共機關一概整然タリ、此地ハこぶらんト  
稱スル貴重ノ織物、及金銀ヲ鑄鑠セル神像器具ヲ産シ、又印度教徒ノ最モ尊  
崇スル靈區ニシテ、市ノ東端ヲ流ル、恒河<sup>ガンジス</sup>ノ水ハ、神聖中ノ神聖ト崇信セラ  
ル、ヲ以テ、四時遠近ノ賽者踵ヲ接ス、又到ル處壯大ナル祠堂アリ、試ニ之ヲ  
訪ヘバ、聖水ヲ汲ミ華米ヲ撒シ、叩頭跪拜スルモノアレバ、或ハ全身ニ灰土ヲ  
塗抹シ危坐苦行スルモノアリテ、其狀甚ダ奇怪也、  
波羅痲斯國ノ大都城ハ、居人殷盛、家ニ巨萬ヲ積ミ、室ニ奇貨ヲ盈テ、其俗學ヲ  
重ンジ、多ク外道ヲ信ズ、天祠百餘所、外道萬餘人、多ク大自在天ニ崇事シ、或ハ  
斷髮或ハ堆髮、形ヲ露ハシテ服無ク、身ニ塗ルニ灰ヲ以テシ、精勤苦行生死ヲ  
出ン事ヲ求ムトハ、玄奘三藏ノ記スル所、今猶古ノ如キ觀アリ、